



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〈第四三三号〉

冬至 とうじ 十二月二十一日

## 年末年始の神宮かがり火

今年も一年で最も昼間の短い冬至を迎えました。寒さもひとしお、毎年のことですが、あつという間の一年だったように感じます。

伊勢神宮は年末年始の期間に限り、終日参拝できます。おおみそか大晦日、年越し参りの人々の足元を照らしてくれるのが、参道のががり火です。大小のががり火は、冷えた身体も暖めてくれ、そして伊勢の人々が丸餅を焼く火にもなります。このかがり火で焼いた餅を食べると一年無病息災で過ごせるといわれ、地元では風習となっています。

このかがり火をたくのは、日本青伸会せいしんかい(東京都千代田区)の会員たちです。白い衣を着用して、「庭燎奉仕」として行っています。そのようなご奉仕でなりたっていることを知り、驚きました。

日本青伸会は、第五十九回神宮式年遷宮で使用する社殿の屋根材である萱かやを採取する場所を開拓するため、昭和十七年に結成された「神宮萱地造成奉仕隊」を元に、翌年およそ四千人の参加者で作られました。現在、度会町川口にある約一〇〇平方メートルの萱山を拓いた団体です。戦時中のことでもあり、大変な作業であったことがうかがえます。

そのメンバーが終戦後の昭和二十年から始めたのが、大晦日の夜のががり火の「庭燎奉仕」なのです。昨年は、北海道から鹿児島までの約百二十人の会員たちが、内宮に八ヶ所、外宮に六ヶ所のががり火を交代で一晩中見守ったといっています。終戦後から今年で七十九回目、長く続いているご奉仕であることを改めて知りました。日本青伸会では、萱地を勤労奉仕で開拓した「御萱地精神」おみやちを忘れないよう、この庭燎奉仕をしているそうです。

年越し参りの際には、寒い中、かがり火を守っている日本青伸会の方たちにひと言、感謝の言葉をかけたいものです。よいお年を。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○ 歳の市

おかげ横丁では、しめ縄作りなど、昔ながらの正月迎えの風習に触れる、お正月のことはじめ「歳の市」を開催いたします。

「歳の市」で福をお持ち帰りいただき、晴れやかな気持ちで新年をお迎えください。

日 時／12月28日(土)まで 10:00～17:00

場 所／おかげ横丁一帯

### ○ 大みそか寄席

風情あるすし久の2階にて行われる大晦日恒例の落語会「大みそか寄席」。

今回は、大晦日恒例の福引の他、スライド上映もお楽しみいただけます。

地元松阪市出身の落語家・桂文我氏と共に2024年の笑い収めはいかがでしょうか。

日 時／12月31日(火) 一部 16:00～ 二部 19:00～

場 所／おかげ横丁「すし久」

入場料／前売り 2,200円 当日 2,500円

出演者／桂文我、桂米平、桂三登 ※演目は当日のお楽しみ

お問い合わせ／おかげ横丁 総合案内「おみやげや」 電話 0596-23-8838

## 五十鈴塾

### ○ 遷宮と小牧・長久手の合戦

織田信長・豊臣秀吉が活躍した頃、伊勢では遷宮の復興を目指して様々な活動が繰り広げられていました。天正10(1582)年、信長が遷宮の費用として3000貫(今の価値では3億以上ともいわれます)を寄進しましたが、同年信長が本能寺で討たれました。息子の信雄が後を継ごうとしましたが、信雄は家康と組んで秀吉との小牧・長久手の合戦に突入しました。敵方の秀吉もまた、遷宮に尽力しようとしていたことから、合戦で最終的に勝った秀吉の援助で内宮、外宮ともに天正13年に正式な遷宮が復活したのです。

日 時／12月23日(月) 13:30～15:00

講 師／太田 光俊 (三重県総合博物館学芸員・博士(文学))

参加費／一般 1,600円 会員 1,100円

場 所／五十鈴塾右玉舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話 0596-20-8251

## 五十鈴茶屋

### ○ 五十鈴茶屋節気菓子

わび すけ 冬の庭に静かに咲く侘助の花。古くから茶花としても広く用いられています。求肥に白餡とメレンゲを加えた生地で粒餡を包みました。炉の季節の風情を感じさせるひと品です。

しん えん まつ 五十鈴川沿いの木々もすっかり葉を落とし、神宮神苑に目を移せば、松の緑が新鮮です。粒餡を山芋きんとんで包み、松ぼっくりと雪化粧した神苑の松を表現しました。

とし こし まん じゅう 今年も無事に年が越せ新年を迎えられます様、感謝と願いを込めていただく年越蕎麦。私共では山芋に蕎麦粉をまぜた生地でこし餡を包んだ薯蕷(じょうよ)饅頭を作ります。少し温めて蕎麦の香りをお楽しみください。